平成19年度
「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」報告書

平成21年2月

美幌町教育委員会

教育委員会の主な事務の管理・執行状況の点検・評価並びに町議会への報告と町民への公表について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月より、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

点検及び評価を行うに当たっては、「教育に関する学識経験者を有する方の知見の活用を図る」ものとされ、点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

美幌町教育委員会は、地教行法に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たすため、教育目標に基づく、主な施策・事業について、点検評価を行い、報告書としてまとめたものです。

なお、本年度は初年度であるため、教育に関し学識経験を有する方々によるご意見、ご指導はいただいておりませんが、次年度以降には、外部評価の方法について検討し、取り組んでまいります。

平成21年２月

美幌町教育委員会

目　次

1. 教育委員会の点検・評価について　2

1）地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正　2

2）点検・評価の導入目的　2

3）学識経験者の知見の活用　2

2. 美幌町教育委員会の点検・評価について　3

1）目的　3

2）実施方法　3

3. 点検・評価の結果について　・・・・・・・・・・・・　5～

1）教育委員会　5～　9

2）学校教育グループ　１０～１４

3）社会教育グループ　１５～２０

4）図書館グループ　２１～２３

5）博物館グループ　２４～２６

6）スポーツ振興グループ　２７～３０

7）学校給食グループ　３１

1. 教育委員会の点検・評価について

1）地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正

平成20年4月の地教行法の一部改正により、教育委員会は、教育委員会の責任体制の明確化の観点から、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。（同法27条）

2）点検・評価の導入目的

教育委員会制度は、市町村長から独立した機関であり、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育事務を執行するものです。

今回の改正において、教育委員会自らが点検及び評価を行い、その結果を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすことを目的としています。

点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくことになります。

3）学識経験者の知見の活用

点検及び評価を行うに当たっては、あくまでも客観性を確保するという趣旨によるものであり、点検・評価の方法や結果について意見を聴取する機会を設けるなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることと規定されました。

なお、どのような学識経験者の知見を活用するかについては、各教育委員会で工夫することとなっており、次年度以降の課題となっています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

第27条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 美幌町教育委員会の点検・評価について

1）目的

① 毎年、教育に関する事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、町民の皆さまに課題や対応の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図ります。

② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に報告（9月まで）するとともに、町民に公表することにより、町民への説明責任を果たすこととします。（平成19年度の報告に限り、平成20年度末まで）

2） 実施方法

① 点検・評価の対象根拠

美幌町教育目標及び第5次美幌町社会教育中期計画に基づき、主な施策・事務事業について対象としました。

【美幌町教育目標】

今日的に変ぼうする社会情勢の中で、教育の現状を踏まえ、美幌町の美しく豊かな自然環境と、その開拓精神にもとづき、町民ひとりひとりが人間的ふれあいを大事にし、生涯教育への関心を高め、生活・文化の発展をはかるとともに、人間性豊かにして心身共に健全であり、創意に富む児童生徒の育成を目指す美幌町の教育を推進する。

＜学校教育＞

◎正しい判断と行動のできる児童生徒の育成をはかる学校教育を推進する

・自らが学ぶ学習態度の育成と、知性・創造性の啓発を
・豊かな心のふれあいを養うとともに、基本的な生活態度の育成を
・強じんな精神力・体力の培いを
・生命を尊重し、健康と安全の理解と習慣形成を
・勤労の尊さの理解と、意欲的な態度の育成を

＜社会教育＞

◎明るく豊かな町づくりをすすめる社会教育を推進する

・町民各層の自主的な学習活動の啓もうと促進を
・文化活動並びにスポーツへの親しみを深め、その生活化を
・青少年団体の実践活動を促進し、心身の鍛練と連帯の強化を
・生涯に生きがいと、明るく楽しみのある生活づくりを

＜教育行政＞

◎美幌町の教育の発展と充実を期する教育行政を推進する

・各学校との連携を密にし、共通の理解に立つ強力な指導体制の確立を

・教育環境並びに条件整備の積極的な促進と充実を

・町の関係各機関及び諸団体との連携強調をはかり、地域ぐるみの教育の展開を

3. 点検・評価の結果について

1) 教育委員会

	事務・事業名	事業の目的	手段(手立て)・方法	具体的な活動目標	達成目標(数値目標)	点検・評価(実績達成率)	点検・評価
教育委員会	1.教育委員会の活性化	教育委員会は、年齢、性別、職業等、人格が高潔で幅広い分野の委員で構成され、合議制の執行機関として、大所高所から基本方針を決定し、その方針の決定を受け、教育行政の専門家として教育長が、事務局を指揮監督して執行する仕組みとなっています。 教育委員会は、この役割と責任を明確にし、これまで以上に教育行政の現実を把握し、地域の多様な特性や地域住民の意思を反映させながら、課題解決のため積極的な教育行政を展開し得るよう教育委員会の活性化を推進し、その役割と機能の充実を図る。	1.適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保 2.情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 3.保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供	1.適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保 (1) 教育委員の選任 保護者を含め、年齢、女性の登用に留意しながら、教育行政に深い関心と熱意を有し、教育委員に相応しい人材の選任。 (2) 教育委員の研修 教育委員会の審議に適切な判断と決定を行うため、学校、地域の視察、移動教育委員会や美幌町内、北見ブロック等、北海道教育委員研修会への参加、事務局からの情報提供。 2.情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 ・今日的な様々な教育課題に対し、情報の共有化により迅速かつ的確に対応できる定例会及び協議会。 ・教育に関する基本方針の決定、教育行政の課題等への取組み策における活発で効率的な対応。 3.保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供 ・学校、保護者、地域住民の多様な要望や意向の把握と情報の共有。	1.適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保 (1) 教育委員の選任 教育委員に相応しい人材の選任と保護者の教育委員への選任。 (2) 教育委員の研修 ①学校現場等視察及び教職員との意見交換による状況把握 ・学校視察(町内６小中学校) ・学校給食センター、博物館、美幌高校、美幌農業高校視察 ②各種教育委員研修への積極的な参加により他自治体教育委員との情報、意見交換等による知識の向上 ・全道教育委員研修会及び道内視察(7月11日～13日：札幌市) ・北見ブロック教育委員研修会(11月1日：置戸町) ・網走管内教育委員大会(12月10日：網走市) 2.情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 (1) 教育委員会定例会議案の事前配布(13回) (2) 教育行政の課題について、事務局より定例会で説明 3.保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供 (2) ＰＴＡ連合会役員との懇談	1. 適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保 (1) 教育委員に相応しい人材を選任（保護者の教育委員を含む。） (2) 教育委員の研修 （延15名／14名）93% 2.情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営 100% 3.保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供 （延 5名／ 4名）80%	本町教育委員会は、定例会等において随時当面する教育行政課題として、各グループで取り組む各種事務事業について事務局より説明してきたが、委員提起の教育行政に関する事項を課題として取り上げているものは少ない。 事務局は教育委員に更に多くの情報を提供し、教職員の意向や児童生徒の保護者、地域住民の意向を把握し、教育委員と事務局職員の情報の共有化を図り、教育行政に反映できるよう努めなければならない。 今後は、教育委員が地域住民と接する機会を多くし、教育委員会定例会への傍聴者を増やす施策、教育委員会の決定事項の公表等を広く地域住民に知らしめる必要があります。 また、教育委員のさらなる資質向上のため、研修機会の充実を検討する必要があります。

○平成19年度　教育委員会議の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、また必要に応じて臨時会を開催し、平成19年度は合計13回開催しました。そのほかに非公開で連絡事項、諸課題について協議会を開催し、意見交換を行っています。

(1) 美幌町教育委員会 定例会・臨時会

委員会名	議案番号	付議事項	公開別	会議年月日	顛末
第１回定例会	議案第１号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第２号	美幌町立学校の学校評議員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第３号	美幌町社会教育委員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第４号	美幌町体育指導委員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第５号	美幌町学校給食運営委員会委員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第６号	美幌博物館協議会委員の委嘱について	公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第７号	平成18年度教育費補正予算の専決処分について	非公開	平１９．４．２５	決定
第１回定例会	議案第８号	平成19年度奨学金貸与生の決定について	非公開	平１９．４．２５	決定
第２回定例会	議案第９号	平成19年度教育費補正予算について	非公開	平１９．５．２５	決定
第４回定例会	議案第１０号	平成20年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について	非公開	平１９．７．２５	決定
第４回定例会	議案第１１号	平成20年度使用小学校及び中学校特別支援学級教科用図書(一般図書)の採択について	非公開	平１９．７．２５	決定
第５回定例会	議案第１２号	平成19年度教育費補正予算について	非公開	平１９．８．３０	決定
第６回定例会	議案第１３号	美幌町教育委員会委員長職務代理の指定について	非公開	平１９．９．２８	決定
第６回定例会	議案第１４号	美幌町教育委員会文書取扱規程の一部改正について	公開	平１９．９．２８	決定
第８回定例会	議案第１５号	美幌町文化財審議委員会委員の委嘱について	公開	平１９．１１．２９	決定
第９回定例会	議案第１６号	平成19年度教育費補正予算について	非公開	平１９．１２．７	決定
第１１回臨時会	議案第１７号	学校職員の処分内申について	非公開	平２０．２．１８	決定
第１２回定例会	議案第１８号	美幌町パークゴルフ場及び室内ゲートボール場施設整備基金条例の制定について	非公開	平２０．２．２９	決定
第１２回定例会	議案第１９号	平成19年度教育費補正予算について	非公開	平２０．２．２９	決定
第１２回定例会	議案第２０号	平成20年度教育費予算原案について	非公開	平２０．２．２９	決定
第１２回定例会	議案第２１号	網走管内教育委員会協議会会長の選任について	公開	平２０．２．２９	決定
第１３回定例会	議案第２２号	語学指導等を行う外国青年就業規則の一部改正について	公開	平２０．３．２８	決定
第１３回定例会	議案第２３号	美幌町立小・中学校通学区域の規制の一部改正について	公開	平２０．３．２８	決定
第１３回定例会	議案第２４号	美幌町教育委員会事務委任規則の一部改正について	公開	平２０．３．２８	決定
第１３回定例会	議案第２５号	美幌町立学校管理規則の一部改正について	公開	平２０．３．２８	決定
第１３回定例会	議案第２６号	美幌町立学校の学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について	公開	平２０．３．２８	決定

委員会名	議案番号	付議事項	公開別	会議年月日	顛末
第６回定例会	選挙第１号	美幌町教育委員会委員長の選挙について	非公開	平１９．９．２８	決定

委員会名	議案番号	付議事項	公開別	会議年月日	顛末
第１回定例会	報告第１号	寄附の報告について	公開	平１９．４．２５	了知
第１回定例会	報告第２号	入学式における国旗国歌の取組状況について	公開	平１９．４．２５	了知
第１回定例会	報告第３号	美幌町教育委員会文書取扱規程の一部改正について	公開	平１９．４．２５	了知
第２回定例会	報告第４号	平成19年第3回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平１９．５．２５	了知
第２回定例会	報告第５号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．５．２５	了知

委員会名	議案番号	付議事項	公開別	会議年月日	顛末
第２回定例会	報告第６号	平成18年度末教育関係基金の状況について	公開	平１９．５．２５	了知
第２回定例会	報告第７号	寄附の報告について	公開	平１９．５．２５	了知
第３回定例会	報告第８号	美幌町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条制定について	公開	平１９．６．２６	了知
第３回定例会	報告第９号	平成19年第4回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平１９．６．２６	了知
第３回定例会	報告第１０号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．６．２６	了知
第３回定例会	報告第１１号	寄贈等の報告について	公開	平１９．６．２６	了知
第４回定例会	報告第１２号	平成19年第5回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平１９．７．２５	了知
第４回定例会	報告第１３号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．７．２５	了知
第４回定例会	報告第１４号	寄附の報告について	公開	平１９．７．２５	了知
第４回定例会	報告第１５号	新規招致英語指導助手について	公開	平１９．７．２５	了知
第５回定例会	報告第１６号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．８．３０	了知
第６回定例会	報告第１７号	美幌町教育委員会委員の任命について	公開	平１９．９．２８	了知
第６回定例会	報告第１８号	平成19年第6回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平１９．９．２８	了知
第６回定例会	報告第１９号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．９．２８	了知
第６回定例会	報告第２０号	旭小学校耐震診断結果について	公開	平１９．９．２８	了知
第６回定例会	報告第２１号	寄附の報告について	公開	平１９．９．２８	了知
第７回定例会	報告第２２号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平１９．１０．２５	了知
第７回定例会	報告第２３号	平成19年度自治功労者等表彰者について	公開	平１９．１０．２５	了知
第７回定例会	報告第２４号	平成19年度北海道スポーツ賞受賞について	公開	平１９．１０．２５	了知
第８回定例会	報告第２５号	平成19年度第7回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平１９．１１．２９	了知
第８回定例会	報告第２６号	教育行政執行報告について	公開	平１９．１１．２９	了知
第８回定例会	報告第２７号	寄贈等の報告について	公開	平１９．１１．２９	了知
第９回定例会	報告第２８号	美幌町就学指導委員会の判定結果について	公開	平１９．１２．７	了知
第１０回定例会	報告第２９号	平成19年第8回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平２０．１．２２	了知
第１０回定例会	報告第３０号	平成20年第1回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平２０．１．２２	了知
第１０回定例会	報告第３１号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平２０．１．２２	了知
第１０回定例会	報告第３２号	寄附の報告について	公開	平２０．１．２２	了知
第１０回定例会	報告第３３号	平成20年度教育費予算原々案について	非公開	平２０．１．２２	了知
第１２回定例会	報告第３４号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平２０．２．２９	了知
第１２回定例会	報告第３５号	寄附の報告について	公開	平２０．２．２９	了知
第１２回定例会	報告第３６号	教職員の争議行為に係る懲戒処分について	非公開	平２０．２．２９	了知
第１３回定例会	報告第３７号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平２０．３．２８	了知
第１３回定例会	報告第３８号	平成20年第2回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平２０．３．２８	了知
第１３回定例会	報告第３９号	卒業式における国旗国歌の実施状況について	公開	平２０．３．２８	了知
第１３回定例会	報告第４０号	平成20年度教職員の人事異動について	公開	平２０．３．２８	了知
第１３回定例会	報告第４１号	平成20年4月1日付け教育委員会職員の人事異動について	公開	平２０．３．２８	了知
第１３回定例会	報告第４２号	交通事故審査委員会の審査結果による職員の懲戒処分について	非公開	平２０．３．２８	了知

(2) 平成19年度 美幌町教育委員会協議会(非公開)

第1回協議会　平成19年4月25日 協 議 第 1 号　教育関係施設の視察について 協 議 第 2 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　いじめに関する調査結果について 報 告 第 2 号　インフルエンザ様欠席による学年閉鎖について 報 告 第 3 号　全国学力・学習状況調査実施状況について	第2回協議会　平成19年5月25日 協 議 第 1 号　第44回北海道市町村教育委員大会及び道内視察研修について 協 議 第 2 号　次回教育委員会等の開催予定日について 協 議 第 3 号　新たな「高校教育に関する指針」について 報 告 第 1 号　インフルエンザ様欠席による学級閉鎖について
第3回協議会　平成19年6月26日 協 議 第 1 号　公立高等学校配置計画(案)について 協 議 第 2 号　第44回北海道市町村教育委員大会及び道内視察研修について 協 議 第 3 号　次回教育委員会等の開催予定日について	第4回協議会　平成19年7月25日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　公立高等学校配置計画(案)について 報 告 第 2 号　佃咲江選手のＢ世界選手権自転車競技大会の出場結果について 報 告 第 3 号　事故報告について そ　の　他　学校教育法等の改正概要について
第5回協議会　平成19年8月30日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　高等学校再編対策について 報 告 第 2 号　事故状況等報告（1学期分）	第6回協議会　平成19年9月28日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　全国学力・学習状況調査結果の公表・利活用問題について 報 告 第 2 号　地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正について 報 告 第 3 号　高校再編対策について
第7回協議会　平成19年10月25日 協 議 第 1 号　北見ブロック教育委員研修会について 協 議 第 2 号　次回教育委員会等の開催予定日について 協 議 第 3 号　学校視察及び教育懇談会の実施について 報 告 第 1 号　高校再編対策について 報 告 第 2 号　平成20年度教職員人事について(同一校長年勤務者解消計画) 報 告 第 3 号　教職員評価制度の導入について 報 告 第 4 号　査定昇給制度の導入について 報 告 第 5 号　不審者情報配信システムの導入について	第8回協議会　平成19年11月29日 協 議 第 1 号　網走管内市町村教育委員研修会について 協 議 第 2 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　高校再編対策について 報 告 第 2 号　不審者情報配信システムの登録状況等について 報 告 第 3 号　全国学力・学習状況調査結果について 報 告 第 4 号　学校職員評価制度及び査定昇給制度の導入について
第9回協議会　平成19年12月7日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　不審者情報配信システムの登録状況等について 報 告 第 2 号　高等学校再編対策協議会陳情結果について 報 告 第 3 号　平成20年度全国学力・学習状況調査の実施について	第10回協議会　平成20年1月22日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　事故状況等報告について（2学期分） 報 告 第 2 号　高校再編対策について 報 告 第 3 号　教職員評価制度について
第11回協議会　平成20年2月29日 協 議 第 1 号　平成19年度小・中・高等学校の卒業式について 協 議 第 2 号　平成20年度小・中・高等学校の入学式について 協 議 第 3 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　学校給食における中国産加工食品の使用状況について	第12回協議会　平成20年3月28日 協 議 第 1 号　次回教育委員会等の開催予定日について 報 告 第 1 号　平成20年度小・中・高等学校の入学式について 報 告 第 2 号　事故状況等報告について（平成19年度分） 報 告 第 3 号　国際ソロプチミスト美幌からの寄附について

(3) 平成19年度美幌町教育委員会諸活動（参加者は、教育長を除く委員4名で積算）

年　月　日	用　　務	参加者	備　　考
平成19年 4月 2日	教職員辞令交付式	1	
平成19年 4月 4日	教職員着任式	3	
平成19年 4月 6日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校、福豊小学校入学式	4	
平成19年 4月 9日	美幌中学校、北中学校入学式	2	
平成19年 5月25日	教育関係施設視察(美幌小学校、旭小学校、学校給食センター)	4	
平成19年 6月 7日	網走管内教育委員会協議会総会（網走市）	0	※教育長出席
平成19年 6月26日	教育関係施設視察(東陽小学校、北中学校、学校給食センター)	3	
平成19年 7月11日～13日	北海道市町村教育委員大会・道内視察（札幌市）	3	
平成19年 7月26日	第1回美幌町高等学校再編対策協議会総会	0	※教育長出席
平成19年 8月30日	教育関係施設視察（北海道美幌農業高等学校）	4	
平成19年10月12日	美幌町120年式典	1	
平成19年10月25日	教育関係施設視察（北海道美幌高等学校）	4	
平成19年11月 1日	北見ブロック教育委員研修会	4	
平成19年11月 2日	第2回美幌町高等学校再編対策協議会	1	
平成19年11月22日	美幌町高等学校再編対策協議会網走教育局陳情	1	
平成19年11月29日	教育関係施設視察（福豊小学校、美幌中学校）	3	
平成19年12月 5日	美幌町高等学校再編対策協議会北海道教育委員会陳情	1	
平成19年12月10日	網走管内市町村教育委員会研修会	4	
平成20年 3月14日	美幌中学校、北中学校卒業式	2	
平成20年 3月19日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校卒業式	3	
平成20年 3月24日	福豊小学校卒業式	1	
平成20年 3月31日	教職員退職者辞令交付式	1	

2)　学校教育グループ

	事務・事業名	事　業　の　目　的　・　内　容	点　検　・　評　価	課　　題　　等
1 幼稚園教育の充実	1. 私立幼稚園就園奨励費補助事業	本町の幼稚園教育は、大谷、藤の私立２園の幼稚園により運営されており、その重要な役割にかんがみ、私立幼稚園の教育条件の維持及び向上を図るとともに、幼児に係る就園上の経済的負担の軽減、健全な発達に資することを目的とし、保護者の所得に応じて補助する。（対象園児258名、補助金額16,785千円）	本年度は、小学校2年生までに兄・姉を有する園児も第2子以降の優遇措置の対象とした。 この結果、対象園児は307名、補助金支払い額は16,090千円となった。	本補助事業は、国の補助事業であり、補助率は１／３となっているが、実際には国の総予算の総枠の中で配分されており、さらに配分率が79.17％となっており、実際の補助金は減額されている状況である。 近年、少子化の対策として、保護者負担の一層の軽減を図るため拡充がなされているが、これにより町負担の増加が懸念されている。
	2. 私立幼稚園振興補助事業	本町私立幼稚園の果たす重要な役割にかんがみ、教育条件の維持及び向上を図るとともに、私立幼稚園の健全な発達に資することを目的とし、教職員の研修活動及び園児の教材費に対し、その一部を助成する。 (研修費・教職員17名×45,000円、教材費・園児305名×3,600円、合計1,863千円)	本事業は実績報告書から、教職員の研修、研究事業及び、幼稚園教具・教材の充実に役立っており、保育活動に寄与している。 実績は、教員数の減少により、1,690千円であった。	少子化の影響で、美幌町内では年間200名以下の出生者数であり、今後、減少傾向にある。 幼稚園、保育園、季節保育所、民間保育所では定員割れの恐れがある。 今後は、幼児教育並びに幼児保育の在り方について、美幌町としての様々な施策の調整、検討が必要である。
2 小中学校の教育環境の充実	1.学校防犯システム設置管理事業 （電子鍵、インターフォン）	本事業は、学校施設における防犯対策として、不審者の侵入を抑制し来訪者が不審者でないことを確認するため整備する。 また、学校における防犯についての意識を高め、地域住民が学校諸活動に対して協力しやすい学校づくりの推進を明確に意識した施策の推進を併せて図る。 （東陽小学校、予算額970千円）	本事業は、平成19年度からの新規事業であり、東陽小学校に整備したものである。 契約金額は、777千円	本事業は大阪市池田小学校の乱入殺傷事件を受け、町議会において対策を講ずるよう質疑があり、検討の結果予算化したものである。 美幌町の小学校は開放的な雰囲気の中で運営されており、校舎敷地内外を門柵等で施錠はしていない状況もあって、子ども達が校舎内外を行き来するため、使用していない実態もあるが、本防犯機能を設置することにより、抑止効果はあると考えている。 今後は、本機能を常時使用することが求められる。
	2.学校校舎耐震化整備事業	地震防災緊急事業五箇年計画により、昭和５６年以前に建設された公立小中学校においては、地震防災上改築及び補強が必要と認められるか判断するため、耐震診断を実施する。 （旭小学校、予算額4,800千円）	平成19年5月1日から平成19年8月31日の期間で旭小学校耐震診断業務委託(委託料3,990千円)を行い、診断結果は、「本建物は昭和55年設計の建物であり、旧基準により設計されている建物であるが、昭和54年に出された「耐震上の配慮を特に要する建築物に対する指導指針」に準じて設計が行われた。」したがって、耐震性の満足度は、昭和56年施行の新耐震設計法と同等の耐震性を有するものであり、耐震診断指標値を越えており、耐震性は現状で満足されている。	本町で耐震診断が残されている学校は、東陽小学校校舎の一部(旧校舎であり、現在は用具準備室となっている。)。福豊小学校校舎(木造建築の一部鉄骨校舎部分)。美幌中学校校舎、屋体となっている。 東陽小学校は教室として使用していないため、また、福豊小学校は複式校統合へ向け地域と協議を続けており、耐震診断は実施しない。美幌中学校については、高等学校再編対策の中で、校舎移転について検討する。
	3.学校教職員コンピュータ整備事業	近年の情報処理技術、通信技術の急速な発展に伴い、教職員相互間のネットワーク化、多岐にわたる事務処理の効率化、省力化を推進し、専用サーバーによる個人情報の管理徹底を図るため、教職員一人１台のコンピューターを整備する。 （美幌小学校　予算額　5,986千円）	本事業は、平成19年度から町内の小中学校へ導入するため計画的に進められており、平成19年度は美幌小学校において整備した。 契約金額　5,933千円	町財政が厳しいおり、引き続き東陽小学校、旭小学校、美幌中学校、北中学校へ整備するが、、更新時期に同様の財源が必要となる。 また、日進月歩の情報技術の進展により、コンピューターの整備は当然として、インターネットによるレンタルサーバー、授業の活用、個人情報の保護等に引き続き取り組むことが必要である。
	4.自動体外式除細動器整備事業（ＡＥＤ）	心臓突然死の救命率向上に自動除細動器（ＡＥＤ）の使用の有用性が述べられ、国内の様々な施設でおかれるようになりました。学校管理下での死亡は、毎年200件以上あり、心臓病が70～85％（聖マリアンナ医大調べ）で、激しい運動中におきる突然死はほとんど心臓の異常で、高学年男子に多いとされているため、本町においては中学校施設に整備し、救命率の向上を図る。 (5,145円×2校×12ヵ月＝123,480円)　～5年リース～	平成19年度は美幌中学校、北中学校への整備を行った。 中学校への整備は、心臓異常が高学年男子以降に多いことから整備行った。	小学校については、小児用パットが必要となり、現時点で機種の制限がある状況のため、平成20年度以降に整備予定である。 また、近くの住民が公共施設である学校のＡＥＤを使用することも可能であり、町全体でＡＥＤマップ等の作成が課題である。 さらに教職員にあっては、救命救急講習の受講などを行っており、緊急時に対応できる体制が構築されている。

	事務・事業名	事　業　の　目　的　・　内　容	点　検　・　評　価	課　　題　　等
2 小中学校の教育環境の充実	5.教育用コンピュー整備事業	各教科及び総合的な学習の時間において、コンピューター・インターネット等の積極的な活用の推進を目的として、美幌中学校に２１台を新規購入し、生徒１名に１台を整備する。 （美幌中学校　予算額5,479千円）	本事業は美幌町総合計画に掲げた事業であり、計画的なコンピューターの更新を行っている。 本年度の美幌中学校の更新により、半数の更新が行われ、現状のインターネット等の対応が可能となった。契約金額5,408千円	情報技術の進展により、最低でも5年に一度の更新が必要であり、小学校、中学校合わせた更新は、財政的な負担が大きい。
	6.教育相談及び不登校問題相談事業	教育相談事業及び不登校問題相談事業として次の事業に取り組む。 ・教育相談活動 ・学校、地域及び青少年関係機関との連絡調整 ・サテライト事業（学習・スポーツ活動・農園作業） ・不登校児童生徒の登校意欲を高めるための家庭訪問（町内巡視活動を兼ねる） （予算額：5,846千円）	・教育相談は、25件の実績であり、来室が11件、電話が8件、メールが2件、訪問4件であった。相談内容は、不登校、いじめ、保護など多岐にわたっている。 ・不登校問題　サテライト事業延べ回数178回、家庭訪問107回、電話相談166回、学校訪問61回 ・その他巡視活動78回 また、不登校の実態は、小学校で6名、中学校で15名の合計21名であった。これらの指導により、登校できるようになった者は7名、継続指導は14名であった。	継続して教育相談、サテライト事業（相談室においてテニス、英会話、教科学習など）、学校訪問などを行っているが、学校、相談室の対応だけでは解決しない場合もあり、町の児童保護担当、児童相談所、警察等との協力関係を更に深める必要がある。
	7.小中学校保健事業	小中学校の児童生徒及び教職員の健康診断等の学校保健事業を行う。（予算額：8，206千円） ・学校医、学校歯科医、学校薬剤師による学校保健管理 ・児童生徒に対する定期健康診断（結核対策含む） ・就学時健康診断 ・教職員に対する定期健康診断 ・日本スポーツ振興センター負担金（災害共済給付制度）	心臓検診は、小学校1年生と中学校1年生が対象で、371名の実績であり、内精密検査対象者は7名であったが、精密検査の結果は全員異常なしであった。 ぎょう虫検査は、小学校1～3年生が対象で588名の実績であり、受診者全員が陰性であった。 尿検査は、児童生徒の全員が対象で、1,888名の実績であり、陽性者は305名で内訳は蛋白が121名、糖が1名、潜血が183名であった。 結核検診は、1,732名の実績であり、精密検査対象者は6名であったが、精密検査の結果、異常は認められなかった。 各学校において保護者に指導を行うとともに、再受診を促している。 教職員の健康診断は、公立学校共済組合の指定者17名は人間ドック、脳ドック、婦人ガン、大腸ガン等を行い、その他の教職員102名は町負担により人間ドックを行った。 検査結果については、学校長から再診等の指導を行っている。	児童・生徒は学校保健法による検診を行っており、特に課題は見当たらない。 教職員にあっては公立学校共済組合の人間ドック対象者は限られているため、学校保健の観点、福利厚生の観点など経費負担について、財政的措置を望む。
3 小中学校の教育内容の充実	1.外部講師学習行事負担金	特に、児童生徒の能力差が生じる体育科（水泳・スケート・スキー）を中心に外部講師を依頼し、グループ別によるきめ細かな指導を実施する。 （予算額：735千円）	平成14年度から実施されており、水泳では42時数、児童数延べ1,257名、講師延べ84名の実績。 スキーでは47時数、児童・生徒数延べ3,344名、講師延べ118名の実績。 スケートでは42時数、児童数延べ2,319名、講師数延べ82名の実績となった。	外部講師は、教職員の技術不足を補うもので、今後とも継続して取り組んでいきたい。 課題として、教員の準備不足により、授業とともに効率よく進めることができない学校もあり、実際の授業時間の半分しか指導できないこともあり、改善が必要である。 また､学校支援地域本部事業の発展的取り組みにより、外部講師、各種ボランティアの活用を図る必要がある。

<table>
<tr><th></th><th>事務・事業名</th><th>事　業　の　目　的　・　内　容</th><th>点　検　・　評　価</th><th>課　　題　　等</th></tr>
<tr><td rowspan="6">３小中学校の教育内容の充実</td><td>2.語学指導外国青年招致事業</td><td>中学校の英語授業指導のために外国青年（ＡＥＴ）を配置する。
・中学校は２週間毎に両校へ配置。
・小学校は随時派遣する。
・長期休業中は保育園へ派遣する。
・氏名：ダッフィル・ポール・ウィリアム（ニュージーランド）
・招致年月日：平成16年7月26日（平成19年7月25日で期間満了）
平成19年8月6日から　氏名：ヒーリー・クリストファー・ジョン
（予算額：1,438千円）</td><td>主に中学校の英語指導の他、小学校、保育園、不登校生徒のサテライト授業としての英会話、町内の各種団体への英語活動を行っている。
小学校への派遣　68時数
保育園　〃　　15時数
サテライト　〃　13時数</td><td>新学習指導要領の改正もあり、小学校における英語活動が組み込まれるため、今後は英語指導助手の二人体制が望まれてくる。</td></tr>
<tr><td>3.特別支援学級の新設</td><td>東陽小学校に虚弱及び言語障がい学級、美幌中学校に情緒障がい学級を新設し、特別支援教育の充実を図る。</td><td>障害の種別に応じて、各学校に特別支援学級を新設した。</td><td>今後も、障害の種別に対応して参りたい。</td></tr>
<tr><td>4.特別支援教育事業</td><td>特別支援教育制度導入に伴う体制の整備
・専門家チーム（14名）
・巡回相談員　（ 2名）</td><td>特別支援教育の対象児童・生徒は、就学指導委員会において協議し決定しており、教育委員会と関係機関の連携により、保護者の意見を尊重し、就学の決定を行った。したがって、専門家チームの発足は行っていない。</td><td>就学前の保護者への助言等は、医師、保健師、養護学校、幼稚園、保育園等の連携により行っている。
就学時には、保護者と協議の上、就学指導委員会で就学先を決定しており、専門家チームの必要性は少ない。
今後とも、巡回相談などを利用し、関係機関と連携のうえ進めていきたい。</td></tr>
<tr><td>5.小学校特別支援学級への介助員の配置
（美幌小学校・東陽小学校・旭小学校）</td><td>美幌小学校情緒障がい学級、東陽小学校情緒障害学級及び旭小学校言語障がい学級に介助員を配置し学校生活支援を行うとともに普通学級との交流学習を促進する。
・配置人数：３名
・雇用形態：学期毎の雇用
（介助員賃金：3,524千円）</td><td>美幌小学校、東陽小学校、旭小学校の特別支援学級に介助員をそれぞれ1名配置し、学校生活支援を行うとともに普通学級との交流学習を促進した。
各学校の学年別在籍状況は次のとおりである。
<table>
<tr><th>H19年</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>計</th></tr>
<tr><td>美　小</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>8</td></tr>
<tr><td>東陽小</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>0</td><td>8</td></tr>
<tr><td>旭　小</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>6</td></tr>
<tr><td>美　中</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td>北　中</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>5</td></tr>
<tr><td>計</td><td>7</td><td>10</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>1</td><td>29</td></tr>
</table></td><td>教員の配置基準では、特別支援学級1学級に8名の児童に対し1名の教員の配置となっているが、障害を持つ子の親ができうる限り普通学級で学ばせたいといった願いも理解した上で、介助員を配置した。
本町では障害を持つ、持たないにかかわらず、学校一丸となって差別のない教育実現に向け今後も取り組むため、必要に応じて配置していきたい。
現在は生活支援を行う介助員を配置しているが、普通教室に在籍するＬＤ、ＡＤＨＤの疑いのある児童への支援員の配置は、校内体制の中でＴＴの活用等で対応しており、必要に応じて対処して参りたい。</td></tr>
<tr><td>6.小学校吹奏楽等大会参加負担金</td><td>小学校が参加する吹奏楽大会等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。
（吹奏楽等大会参加負担金予算額：2,192千円）</td><td>北見地区吹奏楽団体コンクール（北見市）美小　39名
〃　東陽小19名
小学校バンドフェスティバル北見地区大会（遠軽町）
美小　39名
〃　東陽小23名
北海道吹奏楽コンクール（札幌市）　美小　39名
北海道小学校バンドフェスティバル（旭川市）
美小　38名
〃　東陽小24名
網走管内スクールバンドフェスティバル（上湧別町）
美小　39名
北見地区管打楽器アンサンブルコンクール（北見市）
美小　8名
〃　東陽小 8名
北海道管楽器個人コンクール（釧路市）　美小　1名
負担金額　2,192千円</td><td>負担金要綱により参加費用を負担しているが、同一の大会が数多くあり、財政状況が厳しいおり、複数の大会への全額負担は難しくなってきている。
自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となってきている。</td></tr>
</table>

	事務・事業名	事　業　の　目　的　・　内　容	点　検　・　評　価	課　　題　　等
3 小中学校の教育内容の充実	7.中体連・吹奏楽等大会参加負担金	中学校が参加する中体連・吹奏楽等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。 ・中体連大会参加負担金　5,322千円 ・吹奏楽大会参加負担金　1,070千円 ・英語暗唱大会負担金　10千円	＜中体連等＞ 地区大会　13種目 全道大会　7種目 全国大会　2種目 網走地区中学校陸上競技大会(北見市)美・北中22名 中学校通信陸上オホーツク大会（網走市) 美・北中22名 網走地区中学校バレーボール大会(北見市) 美・北中40名 網走地区中学校サッカー大会(紋別市)美・北中39名 網走地区中学校ソフトテニス大会(北見市) 美・北中38名 網走地区中学校卓球大会(美幌町)　北中　30名 網走地区中学校ソフトボール大会(湧別町)北中16名 網走地区中学校柔道大会(網走市)　美・北中 2名 網走地区中学校バスケットボール大会(網走市) 美・北中66名 網走地区中学校弓道大会(北見市留辺蘂)美中　13名 網走地区中学校剣道大会(北見市)　北中　1名 北海道中学校陸上競技大会(士別市)　美・北中 1名 北海道中学校バスケットボール大会(函館市) 北中　14名 北海道中学校ソフトテニス大会(苫小牧市)北中 2名 全国中学校弓道大会(東京都)　美中　8名 網走地区中学校駅伝競走大会(北見市)美・北中21名 全道ユース(U-15)サッカー選手権大会(士別市、札幌市)　北中　25名 ミズノ旗争奪北海道中学校ソフトボール大会(石狩市)　北中　9名 北海道中学校軟式野球選抜選手権大会(滝川市) 美中　17名 網走地区中学校スキー大会(白滝村)　美中　3名 北海道中学校バスケットボール新人北大会(帯広市) 北中　9名 網走地区中学校スキー大会(北見市)　美・北中 2名 北海道中学校スケート大会(釧路市)　美中　1名 北海道中学校スキー大会(札幌市)　美中　2名 網走地区中学校スピードスケート大会(北見市) 美中　1名 全国中学校スケート大会(長野県)　美中　1名 負担金額　5,322千円 ＜吹奏楽＞ 北見地区吹奏楽団体コンクール(北見市)美中　26名 〃　北中　35名 北海道吹奏楽コンクール(札幌市)　美中　23名 北見地区管打楽器アンサンブル(北見市)美中　5名 〃　北中　9名 負担金額　975千円 ＜英語暗唱＞ 網走管内中学校英語暗唱大会(北見市)美中　1名 負担金額　5千円	負担金要綱により参加費用を負担しているが、同一の大会が数多くあり、財政状況が厳しいおり、複数の大会への全額負担は難しくなってきている。 自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となってきている。

<table>
<tr><th></th><th>事務・事業名</th><th>事　業　の　目　的　・　内　容</th><th>点　検　・　評　価</th><th>課　　題　　等</th></tr>
<tr><td rowspan="2">４小中学校児童生徒への就学支援</td><td>1.要保護準要保護児童生徒就学援助費</td><td>生活困窮世帯に対し、学用品・新入学用品・修学旅行費・体育実技用具費・医療費・給食費を扶助する。
歳入：要保護児童生徒就学援助費補助金(基準額の1/2補助)
<table><tr><th>19年度</th><th>要保護</th><th>準要保</th><th>計</th><th>合計</th></tr><tr><td>小学校</td><td>13名</td><td>131名</td><td>144名</td><td>9,000</td></tr><tr><td>中学校</td><td>6名</td><td>58名</td><td>64名</td><td>5,974</td></tr><tr><td>計</td><td>19名</td><td>189名</td><td>208名</td><td>14,974</td></tr></table></td><td>決算額
<table><tr><th>19年度</th><th>要保護</th><th>準要保</th><th>計</th><th>合計</th></tr><tr><td>小学校</td><td>13名</td><td>130名</td><td>143名</td><td>8,128</td></tr><tr><td>中学校</td><td>6名</td><td>59名</td><td>65名</td><td>5,973</td></tr><tr><td>計</td><td>19名</td><td>189名</td><td>208名</td><td>14,101</td></tr></table></td><td rowspan="2">美幌町における全児童・生徒数は年々減少傾向にあるが、受給者率は増加傾向にあり、平成13年度の全体に占める割合は5.39％であったが、平成19年度は11.97％であり、給付額では平成13年度8,928千円であったものが平成19年度は14,101千円となっており、町財政が厳しいおり基準額の見直し検討が必要である。</td></tr>
<tr><td>2.統合地区等通学費補助金</td><td>小中学校の統合地区からスクールバス区域以外の民間路線バスを利用している児童生徒の交通費を全額補助する。（定期券を交付する。）
遠距離通学者の通学経費の一部を助成し保護者の負担軽減を図る。
（負担基準：小学生４㎞以上１万円　中学生６㎞以上１万２千円）
統合地区通学費　小学生　51名　4,043千円
中学生　25名　5,281千円
計　76名　9,324千円
遠距離通学費　小学生　4名　40千円
中学生　2名　12千円
計　6名　52千円
合　計　9,376千円</td><td>決算額
統合地区通学費　小学生　50名　3,890千円
中学生　24名　4,940千円
計　74名　8,830千円
遠距離通学費　小学生　4名　40千円
中学生　2名　12千円
計　6名　52千円
合　計　8,882千円</td></tr>
<tr><td>５高等学校教育の充実</td><td>1.美幌町高等学校再編対策協議会負担金</td><td>本町の未来を担う人材育成及び、高校教育の充実した教育環境を確保するため、美幌高等学校及び美幌農業高等学校の再編問題について、町内有識者による必要な活動を行うことを目的とした「美幌町高等学校再編対策協議会」の運営費用を負担する。
（予算額　402千円）</td><td>平成18年度に引き続き「美幌町高等学校再編対策協議会」を2回開催し、更に保護者の声を聴くため検討会議を2回開催して意見を伺った。
その結果､北海道教育委員会へ5項目の要望を行い、鋭意、北海道教育委員会と協議を行った。</td><td>現在二校ある高等学校を一校に統合することについては現行の五間口確保、跡地の利用については義務教育施設として町への譲渡など5項目の要望を行っており、道教委の回答待ちである。
今後とも、道教委への要望、協議をして参りたい。</td></tr>
</table>

3)　社会教育グループ

	推進項目	事業名	期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	家庭教育に関する学習機会づくり 幅広い体験学習機会の充実 家庭・学校・地域社会が一体となった青少年健全育成の推進	1. 子育てセミナー フレッシュママセミナー	①6月1、8、15、22日（計4回） ①9月21、28、10月5、12日（計4回） ③1月17、24、31、2月4、11日（計5回）	マナビティーセンター、トレーニングセンター、しゃきっとプラザ、子育て支援センター	4ヶ月～1歳までの乳児と母親（15組の親子）	①12組24名、延39組78名 ②15組30名、延45組90名 ③12組24名、延40組80名	保健福祉グループ、子育て支援センター、スポーツ振興グループとの連携により充実した内容で事業を実施することができた。また、子育て支援センターのボランティアの協力を得て、託児を運営することができた。今後、子育てサークルへの加入や親子ですくすく教室への継続活動に結びつくように留意していくことが必要である。
		2. 子育てセミナー 親子ですくすく教室	10月25、11月2、11、15、20日（計5回）	マナビティーセンター トレーニングセンター 子育て支援センター しゃきっとプラザ	２歳～３歳までの幼児と母親（20組の親子）	9組18名、延31組62名	全体に欠席が多くなってしまったが、参加者はどのプログラムにも熱心に取り組んでいた。しかし父親参加のプログラムの父親参加が少なく、今後の内容の充実が必要である。
		3. サークル開設講座 わんぱく教室	6月12、19、26日（計3回）	マナビティーセンター いなみ北公園	１歳～３歳までの乳幼児と母親（15組の親子）	7組14名、延12組24名	わんぱく広場主管により実施したが、多くの参加者が得られなかったことが残念であった。親子遊びや外遊びなど充実した内容であったが、より多くの参加者が得られるようサークルと協議をしていきたい。
		4. 幼稚園家庭教育学級 二園スポーツ交流会 家庭教育学級合同学習会	4月18日～2月28日 10月19日 11月29日	２幼稚園等	幼稚園児の親	延791名 57名 20名	２学級それぞれで主体的な運営がなされ、各行事とも参加人数が多かったが、今後さらに内容充実を図りと学習活動の活性化につなげたい。 ミニバレー、玉入れの２種目を実施した。担当学級(藤幼稚園家庭教育学級)の主体的な運営により日頃の運動不足・ストレスの解消につながった。 各学級学級長・副学級長と事業実施前に内容に関する打ち合わせを行い、要望をもとに社会教育活動奨励員（子育て支援部会）が内容企画を行い実施した。参加者が各学級ともに大変少なく、事業の実施方法等を検討する必要がある。
		5. 子育てに関する啓発・要望把握 子育てカレンダーの配布 家庭教育に関するアンケート調査 家庭教育指針の配布	通年 7月～12月 各小学校入学時		第一子が生まれた親新生児、4･5歳の親1年生の親		子育てに関する意識啓発を図ることができた。 平成17年度に作成（社会教育活動奨励員子育て支援部会）したものを新生児訪問の際に配布 社会教育活動奨励員子育て支援部会主管により実施 小学校入学式で学校を通して配布
		6. 子ども会活動の側面援助	4月～3月	全町	地域子ども会	活動～11子ども会（子ども会安全会入会数）	自治会青少年連合会のあり方も含め、子ども会活動の方向性について検討の必要がある。
		7. 子ども芸術広場	9月11日	旭小学校	児童 保護者等	378名	生の芸術に触れる機会の拡充を目的に、小学校の授業の一環として実施した。今回は周辺校として福豊小の児童・教職員も招待し、多くの子どもに芸術に触れる機会をつくることができた。
		8. 子どもちょっと体験教室 （社会教育活動奨励員体験活動部会主管事業）	5月19日 11月10日	網走海上保安署 しゃきっとプラザ	小学4～6年生 小学生	22名 14名	網走海上保安署の協力により巡視船の見学、実際に海に出るなど、普段ではできない体験を提供することができた。 社会福祉協議会に講師を依頼し、点字の初歩について体験をした。点字の他にユニバーサルデザインについても学ぶ機会となった。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	家庭教育に関する学習機会づくり 幅広い体験学習機会の充実 家庭・学校・地域社会が一体となった青少年健全育成の推進	9. 通学合宿	9月17日～22日 (5泊6日)	地域用水広報館等	小学４～6 年生 (18名)	11名	学校行事との日程調整をはかり、例年より一週間早く実施した。事業内容については社会教育活動奨励員異世代交流部会の支援を受け、充実した体験活動を提供することができた。但し、マラソン大会などの学校行事を避けることができず、子ども達にとって体調管理が難しかった。普段とは違う生活になるので、十分配慮が必要であった。
		10. サークル開設講座 (夏休み子ども教室) 親子陶芸教室	7月21日	マナビティーセンター	5歳以上の子どもと親 (8組)	8組23名	陶芸サークル昼の部の指導により、子どもたちに体験の場を提供する機会となった。今後も子どもの体験機会を増やせるよう、多くのサークルに取組の奨励をしていきたい。
		11. おもしろ科学の祭典 IN びほろ	8月25日	美幌小学校体育館	小中学生	333名	約70名の町民スタッフが準備・運営にあたり29ブースで科学体験が行われた。たくさん子どもたちの参加を得、科学の不思議さや楽しさを体感する機会となった。
		12. コミュニティスクール	通年	主に小学校区内	小学校区内の子どもと大人		小学校区毎の運営委員会の主体的な事業運営により、美幌小学校「お正月を楽しもう」、東陽小学校「ひまわりロード」、旭小学校「運動会・冬まつり出店」等を実施した。地域の子どもは地域で育てる観点から、今後さらなる充実を図る。
		13. 小学校巡回プチアートギャラリー (マナビティーセンター利用サークルの活動成果の発表)	1学期 6月25日～ 7月6日 2学期11月26日～12月7日 3学期 2月18日～29日	美幌小学校 東陽小学校 旭小学校	小学生		学校に展示することで、多くの子どもたちに見てもらうことができた。また、展示後に子どもたちがキッズカルチャークラブに参加するなど、創作活動へのきっかけづくりにもなった。手工芸関係サークルの施設利用が多いことから、様々な分野の作品を見ることができるよう関係サークルと調整していくこととしたい。
わくわく広げるボランティア活動	ボランティアに関する学習機会の充実 地域活動や団体・サークル活動への参加奨励 達成感の得られるボランティア活動の支援	1. ハートフルサポートセミナー	1月18日～20日 (1泊2日､1日)	上美幌保育所 しゃきっとプラザ等	中学生 (20名)	6名	少人数の参加であったが､「ボランティア」をとおして、思いやりや助け合いの心を学ぶ活動ができた。 ここ数年定員を満たしておらず、募集方法など検討が次年度へ向け必要である。
		2. つみきサークルの育成 (高校生リーダー養成講習会)	通年	マナビティーセンター 北見市	高校生	延32名	常呂少年自然の家における合宿を行うなど、新しい取り組みを含め研修内容の充実を図ることができた。 今後はつみきサークル会員の自主的な学習活動を含め、幅広い分野での研修機会をつくりたい。
		3. ＹＭＣＡジュニアリーダー養成キャンプ派遣	8月1日～6日 (5泊6日)	津別町	高校生 (２名)	0名	対象となる高校生と日程が合わず、参加に至らなかった。対象にとって貴重な経験となる取り組みであるため、次年度は派遣を行いたい。
		4. キッズ･カルチャー･クラブ	4月～3月	マナビティーセンター	主に小学生	延93名	5サークル、1個人が延19回実施。休日の子どもたちの活動の選択肢が広がり、地域が子どもを育む取り組みとなった。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
にこにこ深めるコミュニケーション	コミュニケーションを深める事業の充実 地域活動・サークル活動の奨励 地域におけるふれあい活動の促進 明るいあいさつ、やさしい声かけ運動の推進 郷土愛を育むことのできる機会の充実	1. はたちのつどい	10月4日～2月7日（15回）	マナビティーセンター	新成人 S62.4.2～S63.4.1生	12名 延86名	全体として計画の進行が遅れ、実際にはたちのつどいとして作成するものなど後手にまわってしまった。企画自体は美幌町としては新たな取り組みであったが、もう少しはたちのつどいに企画のための調査など、主体的な取り組みを進めるべきであった。
		2. 成人の集い	1月13日	町民会館	成人該当者（231名）	205名（内68名町外者）	はたちのつどいの進行によりスライドとともに20年間を振り返るプログラムや中学校卒業アルバムの紹介を行うなど例年とは違う流れで行い、全体として厳粛に実施することができた。
		3. 女性学級 女性学級合同学習会	4月～3月 7月2日	主に町内等 マナビティーセンター	女性学級生	延1,441名（11学級開設）51名	各学級の運営委員会による主体的な取り組みがなされ、地域の連帯づくりがボランティア活動に発展するなど、各学級とも充実した内容であった。 「笑い」が健康とどのように関連するか学習を深め、今後の学級活動や健康に役立つ学習内容を提供することができた。
		4. 自治会女性部役員研修	12月16日	斜里町	美女連役員	24名	自治会女性部として顕著な活動をおこなっている斜里町自治連女性部会との情報交換を行い、今後の女性活動について研修を深めた。他市町村女性団体との交流機会が少なくなっており、今後も視察交流事業として内容充実を図りたい。
		5. 北中学校特別教室夜間開放	通年	北中特別教室	団体・サークル	3団体・サークル	休館日～年末年始 施設の自主管理により使用しているが、利用サークルが固定化しており、周知等の工夫が必要となっている。
		6. 「絆」の作品募集		町内外	なし	応募195点	「絆」編集委員会により、絆に関する作品を公募し、「絆」作品集を出版した。
		7. マナビティーセンター利用サークルの育成援助	通年	マナビティーセンター	サークル会員	58サークル	活動の成果を活かし、子どもの体験活動や普及・奨励活動に積極的に取り組むサークルが増えている。
		8. 美幌町自治会女性部連絡協議会の活動援助	通年	町内関係施設			専門委員会毎に活発な取り組みがなされ、地域課題に対して積極的な活動が行なわれている。
		9. 文化団体等の活動援助	随時	町内関係施設	文化団体等		文化連盟加盟団体27団体 マナセン利用サークル 58サークル 文化振興を図るため美幌町文化連盟との連携をさらに密にすることが必要である。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
いきいき支え合う高齢社会	高齢者が主体的に活動できる事業の充実 同世代や世代間の交流機会の拡充 高齢者の豊かな経験や知恵を社会に活かす機会の拡充	1.高齢者教室「明和大学」の開設	通年 月2回 (水曜日)	マナビティーセンター	65歳以上の町民 (1年生25名)	134名 延2,377名	今後も学習内容の偏りがなく、学生のニーズを把握しながら組んでいきたい。保育園・中学校への訪問やクラブ活動での慰問等、地域に出向いての活動も多く、今後さらに地域とのつながりや青少年との関わりを充実していきたい。
		明和大学公開講座	① 7月 4日 ②11月 5日	マナビティーセンター 〃	明和大学生と一般町民	学生213名一搬参加86名	明和友の会、老人クラブ連合会等の学習機会にもなっている。今後も内容を充実し取り組んでいきたい。
		明和学校祭	8月18日	マナビティーセンター	明和大学生と一般町民	約230名	学生の自主活動として、今年度第5回目を迎えた。学生自治会の主体性により盛会に終了したが、内容面のさらなる充実を図りたい。
		３町高齢者大学交歓会	10月 5日	美幌町	3町高齢者大学生	394名	3町持ち回りで行い、3町の高齢者が一同に会し、日頃の学習の成果を発表し合ったり、レクリェーションを通して親睦・交流を深め合った。
		2.明和大学「友の会」の活動援助	随時	マナビティーセンター	明和大学卒業生	122名	定期的な活動を主体的にを行っており、明和大学公開講座や学校祭等に多くの参加協力を得ている。
		3.高齢者のグループサークル活動の援助	随時	マナビティーセンター等	高齢者	4ｻｰｸﾙ	明和大学卒業後の自主活動の支援として、活動場所や求めに応じた相談等の対応をしており、今後も支援していきたい。
のびのび高める豊かな学習	幅広い分野の学習機会の充実 学習者同士が互いに学び、高めあう機会の充実 自主的・自発的な学習活動の支援 学習成果を活かす機会の提供	1.マナビティーセンター講座 ①子どものための大人の科学教室	①7月4日 ②7月18日 ③8月25日	マナビティーセンター	成人(20名)	7名 延17名	参加者は少なかったが、実技研修に積極的に取り組み、第3回目（おもしろ科学の祭典inびほろ）では各担当コーナーで子どもたちの指導に熱心にあっていた。
		②女性講座	3月21日	マナビティーセンター	成人	92名	らんざんの会との共催事業として実施。「笑いと健康の素敵な関係」について学習を深める。
		③イマドキ講座	2月27日	マナビティーセンター	成人	38名	現代的課題を取り上げ、今回は「有害サイトから子どもたちを守る」と題して携帯電話に関する講座を、美幌町ＰＴＡ役員研修会と兼ねて実施した。関心が高い事項であったため、良い学習機会となった。
		2.サークル開設講座 ①ゴスペル体験教室	6月27日、 7月4、11日(計3回)	マナビティーセンター	成人（30名）	7名 延15名	講座では２曲を取り上げ、参加者とサークル会員が一体となって充実した内容となった。講座終了後、3名がサークルに入会した。
		②初心者陶芸教室	9月11日、18日 10月2、13日(計5回)	マナビティーセンター	成人（10名）	5名 延18名	赤土と白土の2種類の粘土を用いて、2種類の作品を作り上げた。講座終了後、3名がサークルに入会した。
		③ステンドグラス教室	12月1日	マナビティーセンター	成人（10名）	11名	1面パネルのソケットランプ作りを体験した。サークル会員の丁寧な指導により、素晴らしい作品を作り上げた。
		3.プチアートギャラリー	5月～3月	マナビティーセンター	町民		マナビティーセンター利用サークルの理解を得て、手工芸作品を中心とした作品をロビーに展示し、利用者参画による施設運営を行うことができた。 施設利用者を中心に来場者がとても多く好評であった。また作品数も多く大変充実した内容となった。
		「木工作サークル」作品展	3月11日～25日	マナビティーセンター			

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
のびのび高める豊かな学習	幅広い分野の学習機会の充実 学習者同士が互いに学び、高めあう機会の充実 自主的・自発的な学習活動の支援 学習成果を活かす機会の提供	4. 美幌町文化祭	作品展示 11月3～5日 舞台発表 11月3日	コミュニティセンター 町民会館	町民	1,750名 550名	展示発表では新たな団体や個人出品が増え、内容豊かな展示となり、来場者には概ね好評であった。 芸能発表は、邦楽と洋楽を同一日程で開催し、多くの来場を得ることができたが、ステージ構成の工夫等、より町民の関心を高めるための検討が必要となっている。 作品数 1,430点　芸能発表 16団体
		5. 芸術文化鑑賞事業 ①ひろみちお兄さん親子体操教室 ② 文連単位団体企画事業 歌とリコーダーによるコンサート	3月11日 12月15日	コミュニティセンター 町民会館	町民 町民	1,100名 170名	文化連盟の主体的な事業実施により、幅広い年齢層が一流の芸術文化にふれる機会となっている。
		6. 芸術文化活動の援助	随時		町民	1,221名	ふるさとづくり事業 指導者招聘　１団体(吹奏楽育成会) 鑑賞　４団体(人形劇団とんがらし・劇団アズフィール・いにしえの調べ・藤原真理チェロ) 全道大会派遣1団体(美幌吹奏楽団)
学習基盤の整備	情報提供の体制整備 指導体制の整備	びほろっ子プレイガイドの発行（月1回発行） 教育資源リストの作成・配布 学習相談体制の充実　相談件数16件 有志指導者の養成と活用 社会教育活動奨励員会議　全体会　年２回　各部会　年６回程度 社会教育活動奨励員夜鍋談義　1月25日　15名 関係委員の研修機会の整備 ①市町村社会教育委員長等会議　(　7月5日～ 6日　於 札幌市　1名　) ②北海道社会教育研究大会　(10月11日～12日　於 芦別市　2名　) ③網走管内社会教育振興セミナー　(11月10日～11日　於 紋別市　3名　) ④網社連協北見地区研修会　(12月15日　於 置戸町　3名　)					

推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
青少年の健全育成 青少年育成センター事業	1. 青少年の健全育成、非行防止の巡視及び環境浄化活動の推進 ①定例巡視活動	4月6、9日、7月26日、8月21日、12月26日、1月21日	各小中学校	育成指導員	延227名	青少年の安全と安心を守る青少年パトロールジャンパーを着用した巡視活動は、確実に定着した。 小中学校始業日・終業日の「声かけ」は美幌町独自の取組でもあり、これからも継続していきたい。
	②中学校・高等学校と連携した巡視の実施	9月17日	中学校通学路	育成指導員 中高生	44名	今年度初めて高校生も参加して実施した。今後も子ども達の目線での巡視活動を展開していきたい。
	③夏休み・冬休み・春休み巡視活動	7月31日、8月9、17日、12月27日、1月9、16日、3月27日	町内	育成指導員	延23名	子どもが集まる場所を中心に巡視を実施。今後も継続して実施していきたい。
	④他機関との合同巡視活動 (地域安全ﾊﾟﾄﾛｰﾙ隊ﾘﾄﾙｳｲﾝｸﾞ) 新入学期、盆踊り、ふるさと祭り	4月9～20日、 8月12～13日、 9月4～6日	町内	育成指導員	延433名	地域安全パトロール隊リトルウイング(青少年育成協議会・警察署少年補導員・民生委員児童委員・護老子)による合同巡視。子どもの安全安心のため関係機関との連携を密にし、今後も継続していきたい。
	⑤特別巡視活動(不審者等事件発生時) (地域安全ﾊﾟﾄﾛｰﾙ隊ﾘﾄﾙｳｲﾝｸﾞ)	発生件数8件	町内	育成指導員	延11名	いつでも行動できる指導員が限られるなか、他機関等との連携による緊急時の迅速な対応について検討が必要である。
	⑥有害図書等自動販売機の点検活動	11月8日	都橋			網走支庁による立入調査。(町随行)
	2. 青少年の健全育成非行防止啓発活動 強調月間における啓発活動協力 ①社会を明るくする運動	6月30日開会式 (７月強調月間)	町民会館		8名	雨天によりパレード及び街頭啓発は中止となったが、町内１０カ所にのぼり旗の設置を実施し、全町的な呼びかけを行った。
	②全国青少年健全育成強調月間	11月3日街頭啓発出発式 (11月強調月間)	町民会館 美幌小学校 (体育館)		4名	青少年育成協議会による「少年の主張」大会、「道民家庭の日」絵画コンクール表彰式への協力も含め、地域が子どもを育てる意識を啓発することができた。
	③看板・のぼりの設置	町内10ヶ所				
	④広報活動 町広報での情報提供 リトルウイングの発行	町広報7月、11月、12月 ﾘﾄﾙｳｲﾝｸﾞ7月、9月、11月、3月	全戸配布			青少年健全育成・非行防止のため、全町的な定期的啓発は必要であり、今後も継続していきたい。
	3. 育成指導員等の研修機会の充実 ①「電話聞き役ﾎｯﾄﾗｲﾝ」マイスター養成講習会	10月15、22、30日、11月6、15日	マナビティーセンター	育成指導員 町民	延197名	新年度の「電話聞き役ホットライン」開設に向け、マイスターの養成を図ることができた。 ホットライン開設後も継続的な研修機会をつくることが必要である。
	②各種研修会への派遣	９月６日	札幌市	育成指導員	1名	「北海道青少年育成大会」に派遣し、先進的な事例や他地域の情報により、育成指導員の充実した研修となった。

4)　図書館グループ

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	親子が気軽に利用できる機会の充実 読書活動の重要性についての理解促進 子育てに関する情報交換機会の提供	1. おはなしのへや	毎週木曜日（30分）	視聴覚室	幼児・児童 (3歳～10歳位)父母	48回 延477名	昨年までの幼稚園での参加が少なくなり参加人数は減少した。 今後内容の充実やＰＲをしながらも、開催回数について検討したい。
		2. おはなしぎっしりたまてばこ	10月6日	視聴覚室	幼児・児童・父母	1回 62名	図書館フェスティバル行事として実施された。図書館体験の日参加者など読み手として小学生からシニア世代までが幅広く参加した。
		3. 保育園読み聞かせ巡回	月1回各保育園	町内保育園	保育園児	2ヶ所 計22回	ボランティアの協力を得て保育園において読み聞かせの巡回を行った。
		4. 出前お話会の開催	6月27日、12月11日、12月21日	美幌小学校 東陽小学校 子ども発達支援センター	小学1年生 小学1年生 幼児	3回	要請に応じ出前おはなし会を開催した。
		5. ブックスタート事業	4/18、5/23、7/4、8/22、10/10、11/7、12/19、1/16、2/20、3/19	しゃきっとプラザ	10ヶ月児父母	10回 延183名	アンケートによると事業はおおむね好評である。今年度はブックスタート事業をうけた乳児が3歳児になった為、3歳児検診でブックスタートについてのアンケートを行い、事業の効果やその後の状況について様々な意見を得た
		6. 絵本とあそぼ！	毎月第2、第4木曜日（30分）	視聴覚室	乳幼児（0～2歳児位）父母	24回 延245名	定期的なボランティアの参加により内容の充実が図られた。 定期的な参加があり、参加者が増えたが、ブックスタートのアンケート等で参加したいが時間的に難しいとの声もあったため時間などの見直しが必要である。
		7. 子ども映画会	4/14、5/12、6/9、7/14、8/11、9/8、10/13、11/10、12/8、1/12、2/9、3/8	視聴覚室	幼児・児童及び父母	12回 延378名	学童保育の児童など定期的な参加があり、昨年度より参加人数は増えた。親子、友達同士での映画鑑賞をとおした交流の場となっている。
		8. おはなしと工作のひろば	4/28、5/26、6/23、7/28、8/18、9/22、10/27、11/24、12/22、1/26、2/23、3/22	視聴覚室	児童及び父母	12回 延89名	季節や行事にあわせた絵本を紹介する良い機会となっているが、参加者が減少し、当初の目的である小学生の参加が少なくなってしまったことから内容の検討、開催回数の検討が必要である。
		9. 手づくり絵本講習会	8月3日～4日	視聴覚室	児童及び一般	2日 15名	今回は絵画の部分を「絵手紙」とし、絵手紙の描写方法を学んだ上で絵本を作成した。
		10. 壁面及び柱面装飾	随時	図書館内	幼児・児童	4回	来館者が楽しんで参加できる場を設けた。
		11. 学校文庫	4月～3月	福豊小学校	児童	120冊×12ヶ月	学校との連携をもとに計画的に配本できた。
		12. 学級文庫	随時	町内大規模校	児童	28学級 9,927冊	学級単位で団体文庫を設置。ＰＲと共に借用ルールの徹底も必要である。
		13. おはなし文庫	4月～12月 2月～ 3月	季節保育所	幼児		定期的な配本での利用が定着している。 55冊×7ヶ所×9ヶ月 55冊×3ヶ所×2ヶ月（冬季）

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	親子が気軽に利用できる機会の充実 読書活動の重要性についての理解促進 子育てに関する情報交換機会の提供	14. 幼稚園文庫	4月～3月	町内幼稚園	幼児		定期的な配本での利用が定着している。 藤　60冊、大谷　55冊　毎月配本
		15. 読書感想文コンクール	11月14日表彰式	図書館	小・中学生		児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集し、表彰、文集発行を行った。
		16. 児童生徒作品展	9月1日～9月16日	ギャラリー	小学生		展示機能を活用し、学校の協力を得て東陽小学校児童の作品の発表の場を提供した。
わくわく広げるボランティア活動	ボランティア活動に参画できる機会の提供 図書資料を活用したボランティアへの支援	1. 図書館サークル活動の支援	随時		読み聞かせボランティア		打ち合わせ時などに絵本や読み聞かせの情報提供を行った。
		2. ボランティア研修講座	3月16日	視聴覚室	一般町民 読み聞かせボランティア	1回 18名	「おはなしわくわく講座」として開催し、読み聞かせボランティアをはじめ、子どもに関わる人々の勉強の場となった。
		3. 「図書館ボランティアの日」	4/27、5/25、6/29、7/13、8/31、9/14、10/26、11/16、12/14、1/25、2/29、3/21	視聴覚室他	一般町民	12回 延97名	シニア層を中心に多くのボランティアの参加があった。子ども連れでの参加もあり、異世代交流の場となった。
		4. 「図書館体験の日」	7月31日～8月8日	図書館内	小・中学生 高校生	4日 4名	子どもたちが図書館に親しみ社会参加する機会となったが参加者が減少しておりＰＲの拡大が必要である。
にこにこ深めるコミュニケーション	図書館活動をとおしたコミュニケーションを深める機会の充実 図書館機能を利用したふれあいの機会の提供	1. 図書館フェスティバル	9月30日～10月7日	図書館	一般町民	延 1,715名	今年度もフェスティバルにより多くの方に関わってもらうために関係団体による実行委員会を開催した。今年度は開催期間中の平日4日間を20時まで夜間開館した。夜間開館時の来館人数は少なかったが、あわせた各行事には多数の参加があった。
		2. ユニットライブラリー	通年	町内2カ所	児童・一般	貸出冊数 512冊	貸出冊数は年々減少しているが、地域住民の交流の場としても利用されている。今後よりいっそうのＰＲの強化に努めたい。
		3. 郷土資料の充実と目録の作成	随時				郷土資料室の計画的な整理及び配架変えが行えた。今後町内各施設に呼びかける等広い郷土資料の収集を行いたい。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
いきいき支え合う高齢社会	高齢者の知識・技術・経験を次世代に伝える活動の支援	1. 古典文学講座	5/19、6/16、7/21、8/18、9/15、10/20、11/17、12/15、1/19、2/16	視聴覚室	一般町民	10回 参加者 29名 延135名	美幌高校の協力により講師の派遣をうけ「大鏡」をテキストに講座を実施した。シニア世代が学ぶ場として今後も継続したい。
		2. お楽しみ文学館	4/13、5/11、6/8、7/13、8/10、9/14、10/12、11/9、12/14、1/11、2/8、3/14	視聴覚室	一般町民	12回 延169名	参加者の誘い合いなどにより昨年より参加者が増えている。 学習の機会に加えシニア世代の交流の場として実施している。
のびのび高める豊かな学習	自主的・自発的な学習活動の支援 学習情報の提供	1. レファレンスサービス	通年		個人・団体	232件	利用者の要望に応えることを基本として対応した。
		2. 図書館施設開放事業	通年	1視聴覚室	団体	44件 377名	サークル、町内保育所・幼稚園・学童保育などの利用があった。
				2ギャラリー	団体・個人	14回	町民の作品発表の場を主として利用された。今後一層の利用を呼びかけたい。
				3読書会室　談話室	団体	58件 544名	町民の学習の場として利用された。学生から一般まで広く使う場所のためマナーを徹底した上で広く開放したい。
					個人	493件 757名	
		3. 宅配サービス	随時		個人		事情により図書館に来ることのできない方の家に宅配している。
		4. 無償譲渡コーナー	6/12～17、10/2～7、12/11～30、7/18～31、3/11～23	図書館内	一般町民	5回 延939名 4,436冊	年5回と定期的に開催した。今年度は図書館の廃棄本の無償譲渡に加え、上美幌小学校の閉校による廃棄本と美幌農業館図書ライブラリー廃止に伴う廃棄本の提供も行った。
		5. ふらっとギャラリー	3月6日～3月19日	ギャラリー	一般町民		博物館との連携のもと博物館所蔵資料の展示を行った。広く町の所蔵する資料を公開する良い機会となった。
学習基盤の整備	情報提供の体制整備 指導体制の整備 施設の整備 生涯学習の推進	・図書館だよりの発行（美幌町広報内年3回） ・図書館だよりの定期発行 （投稿ＢＯＸ設置による利用者参加の工夫） ・子ども図書館だよりの発行 ・新着図書案内 ・特集コーナーの設置（児童・一般） ・図書館要覧の発行 ・各種図書目録の作成 ・図書館お知らせコーナーの設置 ・図書情報システムの整備及びインターネットによる蔵書公開 ・図書館ホームページの開設 ・図書館玄関東側にスロープ設置 ・多目的トイレを車いす対応に改修 ・図書館書架閲覧コーナーの照明増設					定期的な発行・更新により図書館の行事や図書案内などの情報提供ができた。 図書館利用者の利便性の向上を図ることが出来た。今後も高齢者、障害者などからも利用しやすい施設として評価されるよう検討を重ねていきたい。

5)　博物館グループ

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
すくす育むこどもの学び	親子で取り組める体験学習の拡充 博物館の特性を生かした体験学習機会の充実 関係機関・団体との連携による学習機会の充実 ふるさとの歴史や自然などの情報提供	1. びほろふるさと体験隊	5/20、6/23、8/8ー10、9/24、10/6、12/15、1/20、3/9	博物館・マナセン・みどりの村・町内	小学4ー6年生 (30名)	18名 延153名	他の社会教育施設等と連携しながら、自然体験・農業体験・仲間づくり等の様々なプログラム内容で実施することができた。
		2. 夏休み子ども自然教室	8/1・2・18	博物館・町内	小学3ー6年生 (10名)	7名 延21名	身近な生きものを材料にして、野外観察や標本づくりを通して、生きものに関心を持ってもらうきっかけづくりが行なえた。
		3. モノづくり講座	6/2・30、8/4・11、9/8、10/6、11/10、12/8、1/12・17・18・19、2/16、3/1	博物館	小学生以上ー一般 (4ー15名)	延129名	「まが玉づくり」「紙すきづくり」「アロマキャンドルづくり」「ガラス玉づくり」を行ない、身近な材料で工作を楽しむことができた。
		4. みどりの村親子ふれあい農園	5/13、6/2・9、7/7、9/1・8・15、10/14・27、1/27	みどりの村周辺	親子（100名）	81名 延488名	みどりの村振興公社、博物館が連携して、農業体験、自然体験事業を行うことができた。自然体験メニューが博物館の他の事業日程等との兼ね合いから、1回しか行なえず、事前日程の調整が必要である。
		5. 小学校と連携した自然体験授業	12/6	町内	旭小学校6年生	60名	先生と学芸員とで連携して自然体験授業を実施することがでた。学校側の都合にもより、年度当初の計画よりも、予定回数が少ないものとなった。
		6. 高等学校と連携した自然体験授業	9/27、11/8	町内	美幌高等学校3年生	延72名	先生と学芸員らで連携しながら、自然体験授業を実施した。「ため池の生きもの」や「サケの産卵床」をテーマに、工夫された内容で行うことができた。
		7. 工作教室	7/21	博物館	小学3年生ー中学生（20名）	9名	民間団体と連携して、各自でハンダゴテ等を用いて電子回路を組立て､ミニラジオをつくることができた。
		8. 森の大工さん	8/4	マナセン正面広場	小学3年生以上（20名）	7名	民間団体と連携して、木の端材等を材料にして、参加者が自由に木工工作して楽しむことができた。
		9. 企画展「交通安全ポスター作文展」	11/3ー30	博物館	一般	233名 (入館者数)	町内の小中学生の作品を集めて、一堂に展示することができた。
		10. 企画展「冬季作品展」	2/10ー3/9	博物館	一般	452名(入館者数)	町内の小中学生の作品を集めて、一堂に展示することができた。
		11. 子供の日無料開放	5/5	博物館	一般	171名(入館者数)	映画会、工作教室等を実施して、博物館に親しんでもらうきっかけづくりが行えた。
		12. 親子学級レク 旭小学校5年1組 旭小学校3年1組	 9/26 2/25	 旭小学校 旭小学校	 5年1組の児童・父兄 3年1組の児童・父兄	 35名 40名	 親子で身近な材料を使い、スノードームづくりが楽しめた。 親子で身近な材料を使って、キャンドルづくりが楽しめた。

	推進項目	事業名		期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
すくす育むこどもの学び	親子で取り組める体験学習の拡充 博物館の特性を生かした体験学習機会の充実 関係機関・団体との連携による学習機会の充実 ふるさとの歴史や自然などの情報提供	13.体験学習						
			美幌小学校	6/27	町内	3年生	94名	地元民間団体と連携しながら、網走川河畔公園周辺で、ゴミ拾いボランティア活動・川の自然観察を行なうことができた。
			美幌小学校	10/13	町内	保体部の児童・父兄	37名	親子で、みどりの村森林公園周辺で自然散策を行なうことができた。
			東陽小学校	11/21	町内	6年生	52名	地層見学・化石探しを行うことができた。
			福豊小学校	3/7	町内・博物館	1・2年生	4名	野外で、生きものの冬越しの様子、室内で動物の資料や館展示を見て学習できた。
		関連事業	自然講座	のびのび高める豊かな学習に記載				
わくわく広げるボランティア活動	ボランティア活動による異なる年齢・世代間交流の充実 ボランティアに関する学習や活動機会の提供	1.動植物分布・生態調査		通年	博物館・町内	学芸協力員らの有志	延100名	町内における動植物の分布・生態調査を、学芸協力員らのボランティアの方々の協力を得ながら進めることができた。
		2.展示物・標本等の作成 および既存資料の整理		通年	博物館	学芸協力員らの有志	延150名	動植物の標本等を作成して、収蔵・展示することができた。また、特別展等の展示計画・展示物作成・展示をボランティアの方々の協力を得ながら進めることができた。
		関連事業	びほろふるさと体験隊 小学校と連携した自然体験授業 高等学校と連携した自然体験授業 自然講座 企画展・特別展等の実施	すくすく育む子どもの学びに記載 〃 〃 のびのび高める豊かな学習に記載 〃				
にこにこ深めるコミュニケーション	親子体験学習の充実 ふるさとの歴史や自然などを理解する機会の提供 関係機関・団体との連携による学習機会の充実	1.館情報の提供		通年		一般		町広報紙、館情報紙、館ホームページ等を通して、館行事案内､自然・歴史・農業等の情報を提供できた。
		関連事業	工作教室 びほろふるさと体験隊 高等学校と連携した自然体験授業 動植物分布・生態調査 展示物・標本等の作成及び既存資料の整理	すくすく育む子どもの学びに記載 〃 〃 わくわく広げるボランティア活動に記載 〃				

	推進項目	事業名	期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
いきいき支え合う高齢社会	世代間の交流機会の充実 高齢者の知識・技術・経験を社会に活かす機会の提供	関連事業 工作教室 びほろふるさと体験隊 高等学校と連携した自然体験授業 動植物分布・生態調査 展示物・標本等の作成及び既存資料の整理 企画展・特別展等の実施 常設展 自然講座 特別展記念観察会	すくすく育む子どもの学びに記載 〃 〃 わくわく広げるボランティア活動に記載 〃 〃 のびのび高める豊かな学習に記載 〃 〃				
のびのび高める豊かな学習	自主的・自発的な学習活動の支援 多様化する学習への対応 学習成果を活かすことのできる機会の提供	1. 企画展・特別展等の実施	通年	博物館	一般		「ハチ」「寄贈資料展」「北海道を探検した男 松浦武四郎ー未知への憧れ・挑戦ー」「交通安全ポスター作文展」「寄贈美術資料展」「移動展」「冬季作品展」「美幌の遺跡」「ミニ展示（ラジオ、明かり、蓄音機、火鉢）」を開催でき、美幌の自然、歴史、農業等を知るきっかけづくりが行えた。展示資料収集、展示物の作成等、学芸協力員や民間団体等の協力のもとで進めることができた。
		2. 自然講座	5/13、6/3・9・10・17、7/29、9/29・30、10/7、2/24、3/16	博物館・町内	小学生以上ー一般（40名）	延204名	「ハチ」「植樹」「淡水魚」「植物」「ヘイケボタル」「キノコ」「野外生活技術」「雪」「自然情報」をテーマにした講演会・観察会を実施することができ、美幌の自然について学習することができた。
		3. 特別展記念観察会	9/23	町内	小学生以上ー一般（40名）	9名	特別展「北海道を探検した男 松浦武四郎ー未知への憧れ・挑戦ー」に関連させて、町内の松浦武四郎ゆかりの地を見学することができた。
		4. 常設展	通年	博物館	一般		「川と人間」「現代・未来農業」を主なテーマにして展示して、ふるさと学習に活かせるようにした。新しい情報を、工夫しながら随時更新する必要がある。
		関連事業 動植物分布・生態調査 小学校と連携した自然体験授業 高等学校と連携した自然体験授業	わくわく広げるボランティア活動に記載 すくすく育む子どもの学びに記載 〃				
学習基盤の整備	情報提供の体制整備 指導体制の整備 施設の整備 生涯学習の推進	町広報紙「博物館だより」への情報提供 館情報紙「グリーンレター」の発行 館ホームページの開設 インターネットによる学習相談 体験学習、講演等の相談 部分展示更新を踏まえた（旧）農業館2Fの修繕作業の実施				毎月掲載 月1回発行 随時、館の情報等をホームページで発信・紹介 随時相談 随時相談 通年	
その他 調査研究活動 文化財の保護	自然史調査：町内の動植物分布・生態調査の実施 埋蔵文化財発掘調査：高野7遺跡および豊岡3・4・12・13遺跡の試掘調査の実施 美幌町文化財「足柄奴」の道具修繕の実施						

6)　スポーツ振興グループ

	推進項目	事業名		期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	親子で取り組める体験学習の充実 マナーやモラルの向上 野外活動や体験活動の充実 関係機関・団体との連携による学習機会の充実 わかりやすい情報や情報交換機会の提供	1.スポーツ教室	親子水泳教室	7月3、6、10、13、17、20日（計6回）	海洋センター	4～6歳の幼児と母親（30組）	11組 延47組 94名	腕浮き輪を利用し深いプールで遊びや泳ぎを体験後半は親にも水泳を体験し泳ぎの習得を子どもと一緒に共感してもらった。
			わんぱくスポーツ教室	5/19、6/23、7/7、9/8、10/27、11/10、12/8、2/23、3/8（計9回）	スポーツセンター他	小学1年～6年生男女	34名 延202名	年間を通じ軽スポーツやレクリエーションなど様々種目を体験させることができた。 美小14人　東陽小6人　旭小10人　福豊小3名 町外1名
			中学生トレーニング教室	9月10、12、14、19、21日（美中） 9月11、13、18、20、25日（北中）	トレーニングセンター	中学3年生 （各30名）	美中8名 延39名 北中7名 延30名	参加者が少なかったがその分十分器具を使え、専門知識を理解してもらうことができた。一部の参加者で目的意識の低い生徒がおり、最初に注意喚起と意識啓発が必要である。
			ラッコ水泳教室	6月19、20、21、26、27、28日（計6回）	Ｂ＆Ｇ海洋センター	小学1～3年生 （50名）	40名 延228名	学年別で班分けし指導したがレベルの差がありすぎた。 最終日に教室の成果を発表し見ていた保護者は感激していた様子であった。
			少年少女バドミントン教室	11月14、21、28日、12月5、12日（計5回）	スポーツセンター	小学3～6年生 （20名）	16名 延76名	最初はラケットを十分に使いこなせない参加者もいたが、2グループに分けて指導し、技術の向上が見られた。
			スケート教室	12月27、29日、1月5、※6日（計4回）	大正橋スケートリンク	小学1～3年生 （50名）	23名 延53名	シーズンの始まりに行うことで競技の広まりを期待したが、悪天候により初回が中止となり残念だった。
			初心者スノーボード教室	1月19、26日、2月2、16、23日（計5回）	リリー山スキー場	小学3年生～6年生 （20名）	15名 延68名	参加者が年々低年齢化しており、安全に配慮する指導を徹底した。全参加者がリフトに乗車し安全に頂上から滑り降りることができるようになった。
		2.幼児の体力テスト（春） 幼児の体力テスト（秋）及び運動指導		5月14～22日 10月10～12月3日	東陽・美幌保育園、各季節保育所	4、5、6歳児	春141名 秋173名	体力の大きな変化は伺えないが、運動する子としない子の体力の二極化が見受けられる。 体力傾向の低かった体力要素を補う運動を取り入れ指導したが、遊びを通して体を動かす習慣を身につけていくことが今後の課題と思われる。
		3.感動体験スポーツ研修		8月4(土)～8日(火) （3泊4日）	国立日高少年自然の家	小学3年～高校生 （36名）	27名 （内中学生）6名	登山の途中でふざけていて捻挫した者がいて下山の際にも注意喚起を強くしておく必要があった。 事前の準備を入念にしておくべきであった。
		4.水泳技能認定会			海洋センター	小学生～高校生	0名	水泳大会等で技能検定を実施したためB&G技能認定への申請はなかった。
		5.親子ウォークラリー大会		5月20日（日）	美幌小学校体育館	親子・家族 （30組）	21組 61名	雨天のため急遽室内親子スポーツ大会を実施。 軽スポーツを通して親子のふれあい交流が図れた
		6.Ｂ＆Ｇ財団事業への派遣		8月5日 7月30～8月4日	斜里町、沖縄	水泳大会18名、小学5年～中学生1名	18名 1名	水泳少年団　18名 陸上少年団　1名
		7.サタ☆スポ （土曜日学校体育館開放）		通年（5～9月、冬休み期間を除く） 主に第2・第4土曜日	市内3小学校	小学生～一般町民	延456名	美小8回：118名、東陽小9回：112名 旭小9回：226名

	推進項目	事業名	期日	場所	対象（募集人員）	参加人員	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	親子で取り組める体験学習の充実 マナーやモラルの向上 野外活動や体験活動の充実 関係機関・団体との連携による学習機会の充実 わかりやすい情報や情報交換機会の提供	8. 学校体育授業への外部指導者派遣の支援	随時	町内小中学校	小中学生		水泳、スキー、スケート
		9. スポーツ少年団の育成 ・スポーツ少年団の活動援助 1) スポーツ少年団活動を通して心身ともに健全な青少年の育成を図るため登録少年団の常時活動を支援する。 2) 管内大会参加選手の送迎（ｽｸｰﾙﾊﾞｽの運行） 3) スポーツ少年団本部活動の指導・援助 ①宿泊研修（日高少年の家）②体力測定会③子どもｽﾎﾟｰﾂﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ④常任理事		＜スポーツ少年団登録団体＞ 1 美幌ｼﾞｭﾆｱ野球　11 旭ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙｸﾗﾌﾞ 2 ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰｽｷｰ　12 ﾗｸﾞﾋﾞｰ 3 スピードスケート　13 剣道 4 柔道　14 陸上 5 UFOｻｯｶｰ　15 銃剣道 6 水泳　16 仲２スピリット野球 7 ﾄﾗﾝﾎﾟﾘﾝ　17 ｿﾌﾄﾃﾆｽ 8 空手道　18 ｼﾞｭﾆｱｱﾙﾍﾟﾝ 9 大東流合気武道　19 旭ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ 10 東陽ﾐﾆﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ		（H19.4） 492名 小学生 428名 中学生 52名 高校生 12名	スポーツ少年団の結成促進未組織スポーツのグループ化と本部未　登録少年団指導者の組織化を図っていきたい。
わくわく広げるボランティア活動	自主的・自発的な活動を促すための情報の提供 スポーツボランティアの機会の提供 主体的なスポーツ活動の支援 人材育成の推進 関係団体との連携による継続した活動の促進	1. レクダンス講習会	10月17日（水）	スポーツセンター	成人一般	35名	札幌より講師を招き、親切丁寧な指導により初心者から経験者まで楽しく実施することができた。
		2. スポーツ指導者講習会	2月1日（金）	しゃきっとプラザ	成人一般	72名	「コーチング」をテーマに行ったが、好評であり次年度以降も継続して行っていきたい。
		3. 体育協会の活動奨励	8月3日開催 10月12・13日 1月26日（土）	①町民と体育を語る夕べ ②スポーツ講演会・体育賞表彰 ③スポーツ研修会 ④体力測定会 ⑤体育施設の維持管理委託業務 （あさひ体育センター・B&G海洋センター・大正橋パークゴルフ場・野球場）		164名	体育協会との連携を図り、スポーツ振興を進めたい。
		4. 全道大会開催の支援（第27回全日本学童軟式野球大会北・北海道大会）	7月14～16日	柏ヶ丘野球場	小学生	500名	
		5. スポーツ団体合宿事業	4月下旬～8月中旬	あさひ広場公園多目的運動広場、柏ヶ丘陸上競技場、スポーツセンター	高校生・社会人		・日本航空女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部合宿 4/29～5/10（12日）21名（ｸﾞﾘｰﾝﾋﾞﾚｯｼﾞ） ・日本航空、韓国ｳﾘ銀行女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部 6/12～7/1（20日）52名（ｸﾞﾘｰﾝﾋﾞﾚｯｼﾞ・ｸﾞﾗﾝﾄﾞH） ・小樽潮陵高校ﾗｸﾞﾋﾞｰ部他8/4～7（4日）55名（青葉荘他） ・ＮＥＣﾗｸﾞﾋﾞｰ部8/13～8/25（13日）53名（ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ）
にこにこコミュニケーション	家庭で取り組めるスポーツの提供 地域間、団体間でのスポーツ交流機会の提供 生涯スポーツをとおした世代間交流の機会の提供 総合型地域スポーツクラブの理解促進 人材や団体の育成と支援 スポーツをとおしたコミュニケーションを深める機会の充実	1. 町民交歓	パークゴルフ大会	9月9日（日）	大正橋パークゴルフ場	町民一般（自治会単位他）	・自治会対抗の部10チーム 72名 ・家族対抗の部9チーム 18名 ・個人の部　2名 92名	

	推進項目	事業名		期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
にこにこコミュニケーション	家庭で取り組めるスポーツの提供 地域間、団体間でのスポーツ交流機会の提供 生涯スポーツをとおした世代間交流の機会の提供 総合型地域スポーツクラブの理解促進 人材や団体の育成と支援 スポーツをとおしたコミュニケーションを深める機会の充実	2.町民体育祭	秋季体育祭	9～10月	町内施設	町民一般	18種目 1,434名	多くの町民の参加が望まれる。
			冬季体育祭	11月～3月	町営スケートリンク リリー山スキー場他	町民一般	4種目 622名	多くの町民の参加が望まれる。
		3.チャレンジデー		5月30日（水）	町内全域	全町民または町内にいる方	6,392名	美幌町120年記念事業の一環として、初めて取り組み、自治会や企業、団体等で多くの方が運動・スポーツに参加し、地域の活性化が図られた。
		4.学校体育施設開放事業		随時	美小、東陽小、旭小、北中体育館・ｸﾞﾗﾝﾄﾞ	町民一般		
いきいき支え合う高齢社	高齢者の健康づくりに関する学習機会の充実 世代間のスポーツ交流機会の提供 生涯スポーツの普及・振興と社会に活かす機会の提供 気軽にスポーツを楽しめる機会と情報の提供	1スポーツ教室	ゆうわスポーツ教室	11月5日～3月17日 毎週月曜日（計17回）	スポーツセンター	55歳以上（30名）	21名 延285名	・ｽﾄﾚｯﾁ体操、軽ｽﾎﾟｰﾂ、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動を通して楽しく体力の向上、健康の保持増進が図られた。教室終了後も運動の継続が期待できる。 ・新規サークルが結成
のびのび高める豊かな学習	多様な学習ニーズに応じた活動の支援 学習形態の工夫 地域指導者の養成と学習活動の機会の提供	1.スポーツ教室	トレーニング教室（春）	5月15、18、22、25、29日、6月1日（計6回）	トレーニングセンター	成人一般（20名）	中止	参加申込が2名しかなく、一般指導日に来ていただくことで教室としての開催は中止した。
			トレーニング教室（秋）	10月11、15、18、22、25、29 日（計6回）	トレーニングセンター	成人一般（20名）	8名 延43名	参加人数は少なかったが、参加者同士和気藹々と楽しみながらトレーニングすることができた。 10月1日からトレッドミルが更新され使用できた。
			高校生トレーニング教室	12月5、7、9、12、14日（計5回）	トレーニングセンター	高校生（30名）	20名 延93名	高校の行事が重なっていたため日程を変更して実施。美高野球部が全員参加し、積極的に意欲を持って参加して全員が許可証を取得した。
			歩くスキー教室	1月12、19、26日 2月2日(土)	歩くスキーコース他 網走道立ｵﾎｰﾂｸ公園	成人一般（30名）	23名 延74名	初心者から経験者まで楽しめる内容で実施できた。特に最終日のスキー遠足は好評であり、今後小学生や家族での参加を検討したい。
			なでしこスポーツ教室	1月29、2月5、12、19、26日（計5回）	スポーツセンター しゃきっとプラザ	成人女性（30名）	25名 延77名	昨年多くの反響があり、託児も有料として実施。 運動機会の少ない育児中の女性を対象とし、様々な内容でリフレッシュしてもらえた。また機会を見つけ運動の継続をするよう促した。 1名体力テストで膝を痛めるケガがあり、事前に注意を促す必要があった。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
のびのび高める豊かな学習	多様な学習ニーズに応じた活動の支援 学習形態の工夫 地域指導者の養成と学習活動の機会の提供	2. Ｂ＆Ｇ会長杯町民水泳大会	7月8日（日）	海洋センター	小学生～一般町民	71名	種目を変更し、泳力検定も併せて実施したことで参加者の意欲を高められた。（大会新15種目） 参加者が年々減少傾向にある。（小学生44名）
		3. ビホロ100ｋｍデュアスロン大会	8月25・26日（土・日）	美幌町、津別町	成人一般、全道・全国(300名)	272名	21回目を迎え、開催時期を8月に変更し、コースを大幅に見直したことで経費削減と運営の円滑化人員の削減など見直しできた。
		4. トレーニング機器によるトレーニング指導	通年 火・水・金曜日 午後7時～9時 月・木曜日 午前10時～12時	トレーニングルーム	町民一般	平成19年 利用人数 7,597名 許可証発行人数 68名	利用人数が減少傾向にあることから、トレーニング機器のＰＲをするなど、利用促進を図っていきたい。
		5. 体力測定（文科省新体力テスト）	10月15日	スポーツセンター	町民 20～24歳男女	6名	文科省新体力テストの結果を活用して行きたい。
		6. 各機関・団体への体育指導	10月31日、11月9日	美幌小学校、 スポーツセンター	美小3年生		総合学習「達人に学べ」でレクリェーション指導。ＰＲを図っていく。
		7. 全国・全道競技大会選手派遣事業	随時		体育協会加盟団体、スポーツ少年団他		7大会　590千円補助
		8. スポーツ関係団体連絡調整会議	4月～3月	トレーニングセンター他	関係機関・団体		各種団体との施設利用調整や事業の連絡調整等、円滑に行われた。
		9. 関係部局等への指導協力	民生部事業関係 社会教育グループ事業関係 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・明和大学体育クラブ、パークゴルフクラブ ・フレッシュママセミナー ・親子ですくすく教室				関係部局と連携を取り、指導の協力体制を図っていきたい。
学習基盤の整備	情報提供の体制整備 指導体制の整備 施設の整備 生涯学習の推進	・広報活動『町広報』への掲載（随時） ・学習相談 ・体育指導委員（会議　年3回） ・トレーニングルーム運営指導員（会議　年6回） ・社会体育振興セミナー（斜里町ウトロ） ・北見ブロック体育指導委員研修会（北見市） ・北海道スポーツ指導者研修会（2月　札幌市） ・吊り上げ式バスケットゴールの設置 ・バスケットゴールのリース ・パークゴルフ用ショット台整備 ・トレーニング器具トレッドミルの更新 ・総合型地域スポーツクラブの調査研究					5名参加 6名参加 2名参加 ラボードXP70　3台(自治体連協2台コミュニティ助成事業) クラブ研修会参加6参加

7)　学校給食グループ

	事務・事業名	事　業　の　目　的　・　内　容	点　検　・　評　価	課　　題　　等
すくすく育む子どものからだ	学校給食運営事業	調理機器等維持管理 　平成９年４月開設後、経年経過により各種調理機器等の故障が多くなってきていることから、日常の点検整備に努め機器の使用年限を高める。	ボイラー及び浄化槽等保守点検業務委託や廃水処理水中曝気ポンプの修繕を行い、施設の適切な維持管理を図った。	経年経過により各種ボイラー等の故障が予想されることから、計画的な交換修繕が必要となっている。
		学校給食の提供 　学校給食の目標（学校給食法第２条）に基づき、心身の健全な発達を促すため、安全で楽しい給食の提供を図る。	主食（米飯・パン・麺類）と牛乳、副食を基本とし、1週間のうち米飯3回、パン1回、麺類1回を原則として、年間183～195食提供（1日約1,900食）。栄養面や安全性に配慮しながらバラエティに富んだメニューによる提供を図った。	中国産ギョウザ事件など食の安全・安心が脅かされる中、各種食材の慎重な吟味選択が必要となってきている。また、各種食材価格が高騰してきていることから、給食費改定について検討が必要となっている。
		地産地消の促進 　安心で安全な食材による顔の見える給食提供のため、美幌産野菜の生産者直接購入を促進する。	米（ほしのゆめ）、人参、ニンニクの３品について直接生産者（組織）から購入を行い、美幌産食材を中心とした給食提供を行った。	早朝納品や洗浄等納入規格により個人生産者からの購入は限られることから、今後は洗浄や冷蔵保管施設などを保有する生産法人やグループ等からの購入検討を図る必要がある。
		学校給食指導（食育）の推進 　生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の保持増進等が図れるよう、発達段階に応じ各小中学校訪問指導を促進する。	全小中学校において、「牛乳を飲もう」「大豆の栄養」「野菜の栄養」と題し栄養指導等を行うとともに、児童生徒から給食に対する希望を聴き取り、今後の業務に役立てている。	偏った食生活による栄養過多や児童生徒の嗜好の変化により、野菜類を中心とした一部食材や牛乳の残食が多くなっている。このため、食事について正しい理解と望ましい習慣を養う指導強化が必要となっている。
子どもたちの安全な登下校	スクールバス運行事業	登下校の安全な送迎 　統合地区における児童生徒の登下校及び校外学習、社会教育事業等参加者の送迎のため、スクールバス（４台）を運行する。なお、少人数路線については、効率及び経費削減を図るためハイヤーによる運行を併用する。	住宅側での乗降による児童生徒の安全面を考慮しながら運行を行った。また、下校路線の一部について直営により運行することにより運行委託経費の削減を図った。	車両購入後の経年経過による計画的な修繕が必要なほか、他部署所管バスの相互利用による経費削減と効率的運用が必要となっている。